

最優秀賞

ふれあい賞

あの人に会ってから

伊勢原市立桜台小学校

五年 岩崎 仁子

私の家の前を時々、目の見えない人が通ります。白杖を持ったその人は、一本道をまっすぐ歩いていきます。

出会ったきっかけは、私と母が家の前にいた時、

「この先、車は停まっていますか。」

と、尋ねられたことでした。

「ここから先、車は停まっています。」

と、私は答えました。

よく思い出すと、その人は体の前に手をかざし、用心深く、車や何かにあぶつからないように歩いていました。見えている世界に慣れている私は分からなかったけれど、視覚のない世界では、障害物が予想できないので、私が想像する以上に激しくぶつかって、ケガを負う可能性があるのかもしれない。

その後も度々、その人に会いました。特に登校時にすれ違うことが多い、

「おはようございます。車は、停まっています。」

と、私は話しかけました。

「ありがとう。今日も暑いね。」

と、その人は笑顔で返してくれて、私はとても嬉しくなりました。

私は、人と話すのが大好きな性格なので、友達が増えたような気がして、ウキウキしました。今まで、目の見えない人を見かけても、どこか別の世界のことかと思っていました。しかし、目の見えないあの人に会ってからは、身近に感じられるようになりました。

周りを見ると、近所の人達はその人の手を肩にのせて誘導したりと色々な手助けの仕方があることも分かりました。目の見えないあの人に会えたことで広がったこの世界で、私のできることを探し実行して、色々な人と助け合いたいと思います。